

私がなぜ現在の科目を選んだか

「消化器内科」

信州大学医学部内科学第二教室

関田博昭

私は現在消化器内科医として働いていますが、診療科の選択は非常に迷いました。学生実習では様々な診療科を回り、循環器、呼吸器、神経、整形外科など、どの分野も魅力的でした。部活や講義を通じて総合診療科の先生と関わることも多く、多角的な視点で診断、治療ができる総合診療科にも興味がありました。その後、初期研修2年目に消化器内科で研修することになり、消化器内科に興味を持つようになりました。

消化器内科の魅力として内視鏡があります。学生時代は見学だけでしたが、初期研修では実際に内視鏡検査を行うことができました。最初は模型で内視鏡の操作を練習しましたが、実際の検査では内視鏡の挿入さえできない状態でした。指導医の先生のご指導のもと何回も検査を行い、徐々に内視鏡検査ができるようになりました。研修病院は朝から夜まで内視鏡検査、治

私がなぜ現在の科目を選んだか

療を行う忙しい病院でしたが、検査・治療などを見学しているうちに、診断と治療を行える内視鏡技術に感動し、自分でもこのような検査、治療ができるようになりたいと思うようになりました。

消化器内科の別の魅力は診療範囲の広さです。食道、胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢といった複数の臓器を扱い、非常に幅広い診療が求められます。吐血などの急性期の処置では迅速かつ冷静な判断が求められ、炎症性疾患、感染症、癌、代謝性疾患など多様な病態も含まれ、じっくりと考え抜いてアプローチすることも必要です。この多様性は総合診療に似ているものを感じました。

このように内科的な診断力を活かしつつ、内視鏡治療も習得できるところが私にとって大きな魅力となり消化器内科を選択しました。内視鏡技術の習得には時間がかかり、幅広い診療の大変さもありますが、検査・治療を通じて患者さんの症状が改善する喜びと、幅広い診療を通じての日々の新しい学びは、医師としての成長とやりがいを与えてくれ、消化器内科を選択して良かったと思っています。(三重大平31年卒)

「循環器内科」

信州大学医学部循環器内科学教室

南澤匡俊

<残り物には福がある>

「謙虚・誠実であること」「縁を大事にすること」「心に余裕をもつこと」を大切にしています。医学科4年次、6週間の自主研究の配属先をジャンケンで決めた際、最後に残った循環器内科(池田宇一名誉教授)を選んだことが循環器内科医としての原点でした。ここで心エコーや心筋症、特に心アミロイドーシスを専門とする小山潤先生との出会いがあり、実習中には1日5~6件(合計100件以上)の心エコー検査を見学し、リアルタイムでの診断・治療の一連の流れに強く惹かれました。小山先生からの継続的な指導やポストン留学経験への憧れもあり、卒業時に池田教室への入局を決意しました。

循環器内科医となり、重症心不全や劇症型心筋症の患者さんが独歩退院する姿を目にして、循環器診療のダイナミズムさや、やりがいを感じました。急性期から慢性期、侵襲的から非侵襲的な検査・治療と幅広い

診療範囲を経験する中で、専門性を活かし続けられると確信しました。また、医師4年目にストックホルムで開催された国際学会で、後に留学先で指導を受けることになる Scott D. Solomon 教授の心不全に関する講演に感銘を受け、研究留学への思いが一層強まりました。

留学は医局人事で1年遅れとなりましたが、そのおかげで複数の留学助成金を獲得し、ボストンでの3年9カ月の研究留学を実現しました。留学中、家族の慢性疾患を契機に自分の強みや軸を見つめ直し、家族との絆を深める貴重な経験をえました。

「周りの人をポジティブにして社会貢献をしたい」「故郷である長野県を胸に世界で仕事をしたい」という中学時代からの思いは、医師19年目の今、さらに強くなっています。現在は心アミロイドーシスを中心に心不全・心筋症診療に取り組むと同時に、日本でのドラック・ラグやドラック・ロスの改善の必要性を痛感しています。

今後も専門知識や人脈を活かし、謙虚な気持ちで社会に貢献したいと考えています。循環器内科医の道を開いてくださった池田宇一先生、小山潤先生、留学後のさらなる展開を応援して下さる桑原宏一郎先生、元木博彦先生、関係各所の方々には深く感謝申し上げます。(信大平19年卒)